

氏名(本籍)	やまもとみつる 山本 充 (富山県)
学位の種類	理学博士
学位記番号	博乙第 655 号
学位授与年月日	平成 3 年 2 月 28 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	A GEOGRAPHICAL STUDY OF CHANGES IN THE MOUNTAIN AGRICULTURAL REGION IN TIROL, AUSTRIA (オーストリア・チロル州における山地農業地域の変容に関する地理学的研究)
主査	筑波大学教授 理学博士 山本 正 三
副査	筑波大学教授 理学博士 奥野 隆 史
副査	筑波大学教授 理学博士 佐々木 博
副査	筑波大学教授 理学博士 斎藤 功
副査	筑波大学教授 理学博士 石井 英 也

論 文 の 要 旨

本研究の目的は、オーストリア・チロル州において、生業、土地・資源利用の複合性に着目しつつ、山地農業地域が、山地のいかなる自然的、社会経済的諸条件のもとで、いかなる変化をたどり、いかに存立しているか考察することを通して、山地農業地域の一般特質を解明することにある。まず、オーベルンベルク村という 1 集落で、フィールドワークに基づく分析を行い、伝統的な土地利用と生業の複合と現在におけるそれらの組み合わせを把握することを試みた。次に以上の複合形態がチロル州全体ではいかに展開しているのか考察を加えた。作物の栽培は、山地においては気候条件つまり、標高に規定され、また、山地の観光資源もまた標高が高くなるほど恵まれている。したがって、自然条件の指標として標高をとりあげることが適切であると考えた。また、農家の山地の諸条件に対する対応の差を生み出す要因として、経営規模と家族構成の重要性が認められるが、こうした社会的要因も考慮して分析した結果、以下のことが明らかとなった。

1) オーベルンベルク村では、農耕においては飼料生産へ、家畜飼養においては育成牛飼養へ、そして、農外就業においては観光業、交通関連産業への傾斜がみられたものの、農耕、家畜飼養、農外就業を組み合わせた生業の複合という基本的構造は依然維持されてきた。その基盤として、河谷部、森林帯、高位放牧地からなる複合的な土地利用の存在が認められた。それぞれの地帯の機能や利用の集約性が変化したとはいえ、各地帯を組み合わせる複合的な土地利用は維持されている。

2) 複合を維持しながら生じた変化は、オーベルンベルク村が、交通条件の改善などにより、より広

い地域システムに組み込まれることによると考えられる。それはまた、潜在的に有していた、景観、積雪といった農業にとって不利かあるいは無関係な山地資源に価値をみいだされた結果でもある。

3) 主要な居住地の標高によってチロル州の各市町村を、401-600m, 610-800m, 801-1,000m, 1,001-1,200m, 1,201m以上の5つの高度帯に分類した。それぞれ高度帯のゲマインデは居住地の上部に標高差400mから800mの地帯を保有しており、垂直的な土地利用が一般的であることが示唆された。しかし、高度帯ごとに農業地域の展開に明瞭な差異がみられ、近年における農業の状況と観光業の発展は、垂直的な差異を一層際立たせる方向にある。

4) チロル州の農業地域構造は、離農進展後の残存農家による集約的な酪農が行われる低位高度帯、零細な農業経営に零細な民宿経営を組み合わせた停滞的な中位高度帯、そして、酪農に育成を加味した零細な家畜飼養に加え、冬季に重点をおいた規模の比較的大きなペンション経営が行われている高位高度帯からなるとして把握された。それぞれの高度帯の中における差異は、経営規模や労働力の差に起因し、ひいては、相続制の差異と関連すると考えられた。

5) 山地農業地域は、集落スケールでは、農耕に家畜飼養、農外就業を加えた複合的な生業と、垂直的に幅のある領域を組み合わせる複合的な土地・資源利用で特徴づけられる。こうした複合性は維持されつつ、山塊スケールでは、各集落の位置する高度によって複合の形態に差異が認められる。特に先進工業国においては、工業・都市の発達の影響が低位の高度帯において、観光化の進展の影響が高位の高度帯において顕著に生じることによって、こうした差異がより明瞭となっている。

審 査 の 要 旨

山地地域においては、複合的な生業や土地利用の存在については、個々の事例研究の中で触れられてきたが、複合的な生業と土地利用の複合を関連づけたり、そうした複合の一般的形態を把握する視点が欠いていた。山本氏の研究は、集落スケールで生業と土地利用の複合を関連づけて考察し、さらにそこでえられた複合性について、山塊スケールで検証することによって、一般的な複合とその差異を解明しようとした点に特色がある。さらに、山地地域の特徴である複合性と垂直性が関連づけられ、かつ個々のスケールで考察されることによって、それぞれの概念のもつ意義が整理されており、広く山地研究を行う上で重要な視点を提示している。こうした手法は、山地地域のみならず地域研究一般に有効である。よって、本論文は高い評価を与えることができる。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。